

石見国長野荘をめぐる諸領主の動向

中司健一

Trends of the Lords Surrounding Nagano-sho, Iwami Province

NAKATSUKA Ken-ichi

はじめに

- ① 長野荘の概観
 - ② 豊田郷、横田、俣賀、梅月
 - ③ 飯田郷、虫追
 - ④ 安富郷
 - ⑤ 得屋郷
 - ⑥ 角井郷
 - ⑦ 吉田郷
 - ⑧ 高津郷
 - ⑨ 美濃地・黒谷
 - ⑩ 白上郷
 - ⑪ 市原郷
 - ⑫ 須子郷
- おわりに

【論文要旨】

本稿では、石見国長野荘をめぐる諸領主の動向を分析する。中世の島根県益田市域には、益田荘と長野荘という二つの大きな荘園があり、従来は益田荘とその領主益田氏の研究が大きく進んでいた。しかし、近年、長野荘についての研究が大きく進展した。まず、石見国長野荘についての研究史を振り返る。

筆者は以前、長野荘について、南北朝時代の領主の割拠状況と、室町時代における益田氏の長野荘進出の過程を考察した。

本稿では、荘内の郷ごとに主に室町期までの領有の変遷を追う。長野荘では領家であった卜部氏の勢力が根強く残っていたことが確認される。一方、高津氏や内田氏など益田氏と競合しうる領主も存在したが、大きく勢力を伸ばすことはなかった。

【キーワード】長野荘、高津川、益田氏、卜部氏